

希望の対義語はなんだろうと考えたことがある。その時、一番最初に浮かんだのは絶望だった。何となくしつぶりになくて辞書を引いた。記されたのは『絶望』の二字。私は何か煮え切らないような、落ちつかないような、妙な気持ちになった。辞書をあ行から順にパフパフとめぐっていた。そして見つけた。『無気力』。ああ、これだと思った。これが希望の反対。そして、私自身なのだと。

そのころの私は、人間関係に悩みがあつて、人間不審気味だった。同時に中学校三年といつこともあり、進路関係も重なって、頭の中はストレスで埋めつくされていた。

人と話すのもつらくて、分かつて欲しいと思って、気持ちの伝え方が分からなくて、ただ黙ってしまふ。せつすべてがどうにでもなれと思つたり、それなのに、誰も自分に気付いてくれないと、矛盾したわがまま一人泣いたりもした。そんな自分が嫌で嫌で、消えてしまいたいとさえ思つた。

進路、夢、未来。私には、どれも遠くに感じられた。例えば、やつてみたいことや、興味をそそられるのもはたくさんあった。でもそ

れを職業として見られるのかとか、毎日続けられるのかなどと聞かれたら、それは色をなくして、砂のように頭の中からこぼれ落ちてしまう。周りはどんどん進んでいくのに、自分でおいて行かれた

ような、とり残されたような孤独感が常にまとわりつく。それでも考えても煮つまつて、イライラばかりたまつていった。

そしてまた不自信、自己嫌悪。何をしても上手くいかないような

校長先生に呼び出されたのは、ちょうど限界ギリギリのあたりだ

「逃げてるだけ」と人に言われた。「もっと前向きになれ」なん

て。そんな余裕どこにもない。つら

くて仕方なかった。

二話、三話…。それぞれ主人公が違う、それぞれにさまざま思いつかれて、一人一人が真っすぐなこと自分が一番よく分かつて、こんな自分を知られるのがこわい。こんな自分を知られるのがこわい。

「逃げてるだけ」と人に言われた。「もっと前向きになれ」なん

て。そんな余裕どこにもない。つら

いがつた。そして誰もが自ら希望をもつて、一人一人が真っすぐなこと自分が一番よく分かつて、こんな自分を知られるのがこわい。

心がすさんでしまつてたのかも

思えてならなかつたのだ。人の感

情を素直に受け入れられない程、

そう思つていた私に、もう一度世

界を見つめるようにならう

ながしてくれた。この本の中で心に残つてゐる言葉がある。

「黒い丸がある理由。それは周りが黒い丸じゃないからさ。周りが白いから、黒い丸がここに存在しているんだ。つまり、黒い丸が存在しているんだ。つまり、黒い丸が存在するための必要条件は『黒い丸』が『黒い丸じゃないもの』と隣接している」と

だつた。

二話、三話…。それぞれ主人公が違う、それぞれにさまざま思いつかれて、一人一人が真っすぐなこと自分が一番よく分かつて、こんな自分を知られるのがこわい。

心がすさんでしまつてたのかも

うぞ。保健室に通い詰めだつた私は、気がつかつて下さっていたのを気づかつて下さっていたのを気づかつて下さっていたのを

だつた。私は本を貸して下さった。そ

の本によつて私は救われることにな

る。

正直に言つと、最初は不信感があつた。本の帯についていた言葉の数々が私にはまだのきれい事になつた。

たして本当にそう呼べるものなの

かは分からない。でも、彼らは絶望

しないし、何に対しても全力だ。

私は自分がひどく情けなく思えて、泣きそうになつた。でも、なぜか、満たされたような、暖かな、おだやかな気持ちになつた。

この本は、私に生きているとい

うことを思い出させてくれた。ぐ

ちゃぐちゃになりつぶされていた

私の頭の中をクリアにしてくれた

踏み出すための力はある。後は

あなた次第なんだつて、言われて

いるような気がした。私は弱い自

分を知つた。汚い自分も。だから

もう大丈夫。少しずつだけど、進

んでいく。それも全部自分なん

だと、受け入れることができる。

進路はいまだに決まつていない。

でも焦つたつて仕方がないから、

やりたい事、興味のあることを、

とりあえず一つずつやっていこう

と思う。未来とか将来とか、先の

事はよく分からない。でも目標は

見つける事ができた。

私も、黒い丸になりたい。

(原文のまま・澤口さんは久慈高校

に進学しています)

毎日毎日、一日が早く終わればいいことそれはばかり考えていた。何もやる気が起きない。何かをするのがこわい。誰かと話すのも嫌だ。こんな自分を知られるのがこわい。しない。

しかし、ページを開くと私はす

ぐに引きこまれていつた。一話、

二話、三話…。それぞれ主人公が違う、それぞれにさまざま思いつかれて、一人一人が真っすぐなこと自分が一番よく分かつて、こんな自分を知られるのがこわい。

心がすさんでしまつてたのかも

うぞ。保健室に通い詰めだつた私は、気がつかつて下さっていたのを

だつた。私は本を貸して下さった。そ

の本によつて私は救われることにな

る。

正直に言つと、最初は不信感があつた。本の帯についていた言葉の数々が私にはまだのきれい事になつた。

たして本当にそう呼べるものなの

かは分からない。でも、彼らは絶望

しないし、何に対しても全力だ。

私は自分がひどく情けなく思えて、泣きそうになつた。でも、なぜか、

満たされたような、暖かな、おだやかな気持ちになつた。

この本は、私に生きているとい

うことを思い出させてくれた。ぐ

ちゃぐちゃになりつぶされていた

私の頭の中をクリアにしてくれた

踏み出すための力はある。後は

あなた次第なんだつて、言われて

いるような気がした。私は弱い自

分を知つた。汚い自分も。だから

もう大丈夫。少しずつだけど、進

んでいく。それも全部自分なん

だと、受け入れることができる。

進路はいまだに決まつていない。

でも焦つたつて仕方がないから、

やりたい事、興味のあることを、

とりあえず一つずつやっていこう

と思う。未来とか将来とか、先の

事はよく分からない。でも目標は

見つける事ができた。

私も、黒い丸になりたい。

(原文のまま・澤口さんは久慈高校

に進学しています)

のだ。自分なんかどうでもいい、

周りに何が起つたって関係ない。

そう思つていた私に、もう一度世

界を見つめるようにならう

ながしてくれた。この本の中で心

に残つてゐる言葉がある。

「黒い丸がある理由。それは周り

が黒い丸じゃないからさ。周りが

白いから、黒い丸かここに存在し

ているんだ。つまり、黒い丸が存

在するための必要条件は『黒い丸』

が『黒い丸じゃないもの』と隣接

している」と

だつた。

踏み出すための力はある。後は

あなた次第なんだつて、言われて

いるような気がした。私は弱い自

分を知つた。汚い自分も。だから

もう大丈夫。少しずつだけど、進

んでいく。それも全部自分なん

だと、受け入れることができる。

進路はいまだに決まつていない。

でも焦つたつて仕方がないから、

やりたい事、興味のあることを、

とりあえず一つずつやっていこう

と思う。未来とか将来とか、先の

事はよく分からない。でも目標は

見つける事ができた。

私も、黒い丸になりたい。

(原文のまま・澤口さんは久慈高校

に進学しています)

のだ。自分なんかどうでもいい、

周りに何が起つたって関係ない。

そう思つていた私に、もう一度世

界を見つめるようにならう

ながしてくれた。この本の中で心

に残つてゐる言葉がある。

「黒い丸がある理由。それは周り

が黒い丸じゃないからさ。周りが

白いから、黒い丸かここに存在し

ているんだ。つまり、黒い丸が存

在するための必要条件は『黒い丸』

が『黒い丸じゃないもの』と隣接

している」と

だつた。

踏み出すための力はある。後は

あなた次第なんだつて、と言われて

いるような気がした。私は弱い自

分を知つた。汚い自分も。だから

もう大丈夫。少しずつだけど、進

んでいく。それも全部自分なん

だと、受け入れることができる。

進路はいまだに決まつていない。

でも焦つたつて仕方がないから、

やりたい事、興味のあることを、

とりあえず一つずつやっていこう

と思う。未来とか将来とか、先の

事はよく分からない。でも目標は

見つける事ができた。

私も、黒い丸になりたい。

(原文のまま・澤口さんは久慈高校

に進学しています)

のだ。自分なんかどうでもいい、

周りに何が起つたって関係ない。

そう思つていた私に、もう一度世

界を見つめるようにならう